

総合特別区域の進捗に係る評価  
[グリーン・イノベーション分野]

令和元年度

たたらの里山再生特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年7月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値  $(2.8+3.8)/2=3.3$

3.3

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	人口の社会動態(転入から転出を減じた人数)	-26%	1
2	まちづくり活動に参画する市民の割合	96%	4
3	市民参加型林地残材搬出量(年間)	66%	3
4	コミュニティビジネス売上高(30団体平均/年間)	77%	3

評価指標毎の進捗の評価の平均値  $(5 \times 0 + 4 \times 1 + 3 \times 2 + 2 \times 0 + 1 \times 1) / 4 = 2.8$

2.8

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.8

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値  $(4+2.5+3.5)/3=3.3$

3.3

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.5

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.5

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.3

- ・人口減少の課題先進地という厳しい状況下で、交流人口や関係人口の増加をはかる地道な取組を評価。
- ・中山間地域における市民力も活用した里山の再生による持続可能な地域づくりという、重要かつ難しい課題に取り組んでいる。
- ・数値目標である転入と転出の差を増加させるための直接的な事業についてより一層の工夫が必要。
- ・「まちづくりに参加する市民の割合」の指標についてはより評価内容の質の充実を図る時期に来ている。
- ・森林バイオマスエネルギー事業の木材搬出エリアが、路網未整備地域に移りつつあるとのことであり、林道整備や高性能林業装置など事業を支えるインフラ拡充への取組がさらに重要と考えられる。
- ・地域循環型の事業の計画や取組を期待。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.3

### 総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算  $(3.3+3.3+3.3 \times 2) \div 4 = 3.3$

3.3

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。